

研究協力をお願い

昭和大学横浜市北部病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

脳腫瘍における Three-dimensional Rotational Angiography での多段階注入法の有用性

1. 研究の対象および研究対象期間

2019年7月～2023年9月に昭和大学横浜市北部病院で脳腫瘍疑いにて脳血管撮影検査を受けられた方

2. 研究目的・方法

近年、脳腫瘍における治療においては、開頭術とともに術前にカテーテルを用いて栄養血管を塞栓する脳血管内治療 1、を組み合わせたハイブリット治療が行われています。術前に栄養血管を塞栓することで開頭手術時出血を少なくすることが期待できます。治療に用いる血管撮影装置では、CTのような横断画像や画像データから 3D 画像を作成することができ、術後においては脳出血など合併症の有無を把握することができる、come beam CT 画像(CBCT) 2 を撮影することができます。安全に脳血管治療を行うには、回転撮影(CBCT)において腫瘍全体の造影効果が必要であり、その造影効果は、造影剤の注入方法により、違いがみられます。

本研究では、造影剤の注入方法により、腫瘍全体の造影効果の違いの影響について後ろ向き検討を行います。過去に脳腫瘍症例で血管撮影を実施した症例データを用いて、CBCT 撮影を多段階注入法で造影剤を注入し CBCT 撮影を行った症例について後ろ向き検討を行います。データは脳腫瘍疑いにて CBCT 撮影を行ったデータのみを使用します。解析データは CBCT 画像を用いて動脈の信号値と腫瘍全体の信号値を測定します。患者データは、病院内の装置付随のワークステーションにて「4. 研究に用いる試料・情報の種類」に記載した情報を取得します。

用語説明

1 脳血管内治療：頭蓋内や頸部の血管性病変に対して直接患部を切開せずにカテーテルを用いて治療を行う方法の総称

2 come beam CT: X線装置を回転させることにより、CTのような画像を取得することができる撮影法

3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2027年3月31日まで

4．研究に用いる試料・情報の種類

2019年7月～2023年9月に昭和大学横浜市北部病院で脳腫瘍疑いにて脳血管撮影検査を受けられた方の画像データを使用します。

5．外部への試料・情報の提供

該当いたしません

6．研究組織**研究責任者**

昭和大学横浜市北部病院 放射線技術部 先山 耕史

7．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学横浜市北部病院 放射線技術部 氏名：先山 耕史

住所：224-8503 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1 電話番号：045-974-7477